

令和 5 年 度

前 期 日 程

地 理 歴 史 問 題

〔注 意〕

1. 問題冊子及び解答用冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、解答用紙の受験番号欄（計 6 か所）に正確に記入すること。
3. 問題冊子は、表紙を除き 1 ページから 13 ページまでである。10 ページ以下は、下書き用紙である。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用冊子には、解答用紙 3 枚と白紙 1 枚が折り込まれている。解答用紙をミシン目に従って切り離すこと。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の下書き用紙のほか、問題冊子の余白も下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子及び白紙は持ち帰ること。

令和5年度 地理歴史 (F)

補 足 説 明

・ 問題冊子

I 世界史

8 ページ 資料2の1行目、9 ページ 問2の1行目および3行目に記されている「ネールー」は、教科書においては一般的に「ネルー」と記されている人物のことである。

I**世界史問題**

- (I) 次の文章は、イル＝ハン国(フレグ＝ウルス)第4代君主のアルゲンが西暦1289年(十二支では丑年)5月に西欧のある国に発出した外交書簡の前半部分である。これを読んで、下の問い(問1～問3)に答えなさい。

とこしえの天の力と皇帝の神威によって、(これは)私アルゲンのことばである。① フランス王へ。去年、お前がマール＝パール＝サウマ巡察官をはじめとする使節たちを通じて上奏するには、② 「イル＝ハンの軍隊がエジプトの方へ出征するなら、我らもここから出征して合流しましょう」③ という。このお前の上奏をよろしいと認め、「天を祈って、寅年十二月に出軍し、(翌年の)正月十五日にダマスクスに下営しよう」と言った。今、その誠実な言葉に従い、軍隊を約束通りに送り、天に道を与えられてその地の人民を攻め取ったら、イエルサレムをお前たちに与えよう。約限に遅れて軍兵を加えても役には立たんぞ。後になってから悔やんでも益はないぞ。

- 問1 下線部①で言及される「皇帝」の事跡として正しいものを、下記のA～Kから二つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

- A 金印勅書を発して七人の選帝侯による皇帝選挙の方法を定めた。
- I 鄭和を東南アジアやインド洋に派遣した。
- U 勅令によって聖画像(イコン)を禁止した。
- E 日本に遠征軍を派遣した。
- O プガチョフの乱を鎮圧した。
- K 土木の変でオイラトに捕虜とされた。
- K 聖職者の叙任権をめぐって教皇グレゴリウス7世と争った。
- K 南宋を滅ぼした。

問 2 下線部②で言及される「フランス王」の事跡として正しいものを、下記の
ア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア ナントの王令を発してユグノーに信仰の自由を認めた。

イ カペー朝を開いた。

ウ 聖職者・貴族・市民の各身分代表からなる三部会を招集した。

エ 神聖ローマ皇帝位をめぐってハプスブルク家とイタリア戦争を続けた。

問 3 文中の「お前」が下線部③のような提案を行なった背景について、この書
簡が書かれるまでの約 200 年間のユーラシア西方の情勢を念頭におきつつ
説明しなさい(300 字程度)。

- Ⅱ) 世界史Bの授業で、ヨーロッパと日本で描かれてきた世界図を素材に両者の間での情報交換の歴史を調べることになった。教員から示された資料は、次に示す図1～6である。それぞれの図とその解説を参照しながら、下の問い(問1～問4)に答えなさい。



図1 ヘレフォード図 13世紀後半から14世紀頃にヨーロッパで作製され、イングランドのヘレフォード大聖堂に所蔵されている世界図。ヨーロッパから見てキリスト教の聖地エルサレムの位置する東を上方として、上部にアジア、左下部にヨーロッパ、右下部にアフリカが描かれている。

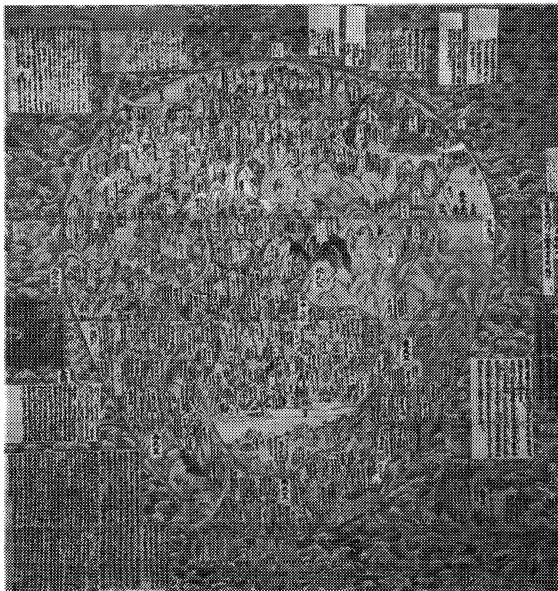


図2 五天竺図 14世紀頃に描かれ、法隆寺に所蔵されている世界図。天竺(インド)でうまれた仏教が震旦(中国)を経て本朝(日本)にもたらされたとする世界観に基づき、三者によって形作られた世界の姿が描かれている。

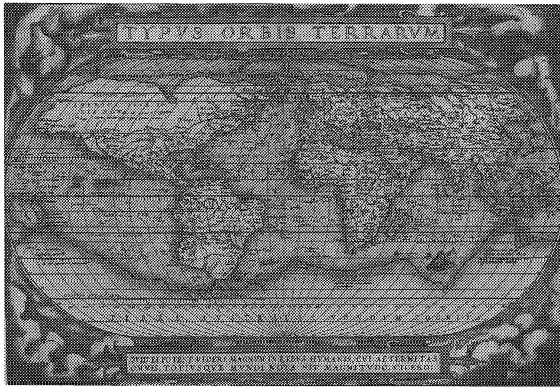


図3 世界の舞台 17世紀初めまでにアントウェルペンの地理学者オルテリウスが作製した地図帳に含まれた世界図。右端部には日本も描かれるようになり，下部にはオーストラリアではなく「メガラニカ」と呼ばれる巨大な陸地が描かれている。

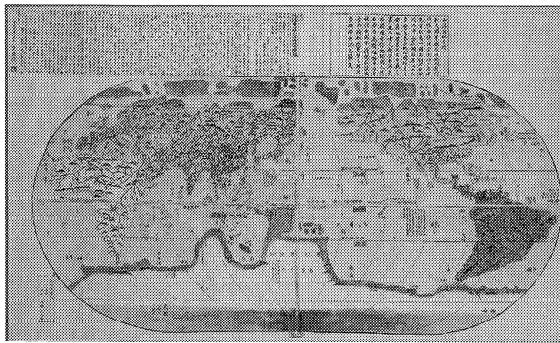


図4 地球万国山海輿地全図 説 水戸藩で活躍した儒学者の長久保赤水がマテオ・リッチの『坤輿万国全図』を参考としながら18世紀後半に作製した世界図。地図の下部には図3のように「墨瓦臘泥加^{メガラニカ}」という架空の陸地が描かれている。

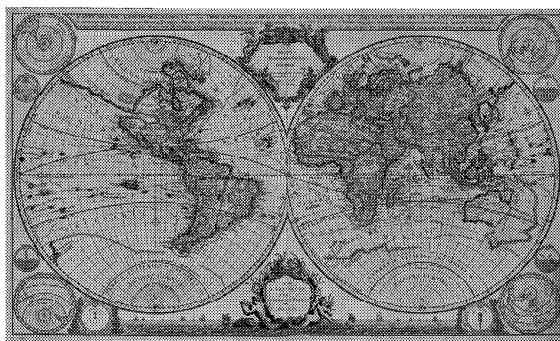


図5 モルティエ世界図 17世紀末から18世紀にかけてアムステルダム出版業者モルティエから繰り返し出版された地図帳にある地理学者ジャイヨによる世界図。オーストラリアやニューギニアなどがつながった姿で描かれている。

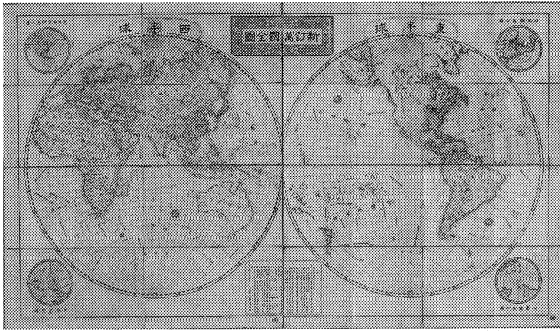


図6 新訂万国全図 江戸幕府の天文方として活躍した高橋景保が1810年に作製した世界図。日本を中心に配置しながら、樺太など日本の北の姿が描かれるとともに、メガラニカは消えてオーストラリア、ニュージーランドなどの姿も描かれている。

問1 図1や図2はそれぞれの地域における世界観が反映されたものと考えられている。世界史上、こうした図が作製された地域について述べたア～エのうち、下線部について正しいものを一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 世界の「果て」が円盤のような姿で描かれた地図が作製されたメソポタミアでは、アッカド人たちが複数の都市国家を統一し、彼らの言語で古巴ビロニアのハンムラビ法典も記された。

イ 数学や幾何学で得られた知識を応用した地図が作製された東地中海では、アレクサンドロス大王の後継者たちとアケメネス朝の抗争により、文化の中心地として栄えていたカイロが衰退した。

ウ 仏教の世界観を表したマンダラが作製されたチベットでは、ダライ＝ラマの庇護の下でナーランダー僧院が栄え、中国や東南アジアから仏典をもとめて多くの僧が来訪した。

エ モンゴル帝国の支配したユーラシアの姿を描く地図が作製された朝鮮では、元朝の衰退後に新羅が倭寇対策を目的に明朝の冊封を受け、中国の影響を受けた両班たちが朱子学を支持した。

問 2 ヨーロッパで図 1 から図 3 へ世界図の変化が見られた背景について生徒が調べた。調べた内容とそれに基づいた判断として適切と考えられるものを、下のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア ヴァイキングの歴史を調べた結果、図 1 のようにアメリカ大陸が描かれなかった背景の一つには、ノルマン人の一部が北アメリカに達していたものの、キリスト教を信仰せずに教会と対立していたことがあると判断した。

イ 地中海の歴史を調べた結果、図 3 のように地中海が詳しく描かれるようになった背景の一つには、シチリアに招かれたイスラーム教徒の学者たちにより、アラブ人たちの生み出した知識が伝達されたことがあると判断した。

ウ 航海術の歴史を調べた結果、図 3 のように北が上方に描かれるようになった背景の一つには、モンゴルの遊牧民が中国から伝えた羅針盤が、ヨーロッパでは海図とともに航海に利用されたことがあると判断した。

エ ルネサンスの歴史を調べた結果、図 3 のように緯線・経線が使われるようになった背景の一つには、アフリカ大陸やアメリカ大陸へと航路が広がるなか、古代ギリシアの知識が参考にされたことがあると判断した。

問 3 日本で図 4 から図 6 へ世界図の変化が見られた背景について生徒が調べた。その内容と結果について適切でないと考えられるものを、下のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 図 4 が『坤輿万国全図』を参考に作製された背景についてイエズス会を調べた結果、典礼問題をきっかけに中国でのキリスト教布教が禁止されたため、イエズス会士たちは日本へ逃れたことがわかった。

イ 図 6 がアムステルダムで作製された図 5 を参考にしていた可能性についてオランダを調べた結果、オランダは長崎の出島に拠点を置いたオランダ東インド会社を通じて日本と交易を行っていたことがわかった。

ウ 図 6 で日本の北方の様子が描かれるようになった背景についてロシアを調べた結果、ロシアは毛皮などの貿易を拡大させるためにアラスカまで進出し、日本の北方にも関心をもつようになったことがわかった。

エ 図 6 で南太平洋の様子が描かれるようになった背景についてイギリスを調べた結果、イギリスは、オーストラリアなどの探検事業を進め、その結果として科学的な知識を広めたことがわかった。

問 4 図 1 ～図 6 の世界図から読み取れるヨーロッパと日本との間の情報交換の歴史について、図 1 ～図 6 の解説や問 1 ～問 3 の内容を踏まえながら説明しなさい(200 字程度)。

- Ⅲ 第一次世界大戦後の国際秩序に関する次の資料 1・2 を読み、下の問い(問 1・問 2)に答えなさい。

資料 1

戦争放棄に関する条約(ケロッグ＝ブリアン条約, 1928 年 8 月 27 日)

- 第 1 条 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴えることを非難し、かつ、その相互の関係において国家政策の手段として戦争を放棄することを、その各々の人民の名において厳粛に宣言する。
- 第 2 条 締約国は、相互間に発生する紛争または衝突の処理または解決を、その性質または原因の如何を問わず、平和的手段以外で求めないことを約束する。

資料 2

ネールーが娘インディラーに宛てた手紙(1933 年 8 月 7 日)

1932 年の夏以来、南アメリカの内部に二つの小さな戦争が起きているが、満洲における日本の戦争とおなじように、これらは公式には戦争とは呼ばれていない。国際連盟の規約やケロッグ平和条約その他の条約以来、戦争はほとんど生じていない。ある国が他国を侵略してその市民を殺すと、これは「紛争」と呼ばれる。そして紛争は条約によって禁止されたものではないから、だれもが平気でいるというわけだ！これら[南アメリカの]小さな戦争は、満洲の戦争のように世界的重要性をもたない。しかしそれらは、国際連盟から幾多の条約や協定までの、大いにもてはやされた世界の平和機構の全体が、どれほど脆弱で役立たずかを証明する役に立つ。国際連盟のある加盟国がほかの加盟国を侵略すると、連盟はいたずらに傍観するか、争いを決着させるために微力で役にも立たない努力をするのみののだ。

問 1 資料 1 の「戦争放棄に関する条約」(パリ不戦条約)は、提唱者のアメリカ
国務長官ケロッグとフランス外相ブリアンの名をとって、ケロッグ＝ブリアン
条約ともいわれる。この条約は締結された当時から論争を呼び起こした。

この条約が締結されるに至ったヨーロッパにおける歴史的背景と、なぜ
この条約が効力を持たずに軽視されたのかについて、1920 年代の国際協
調体制の要であった国際連盟 (League of Nations) と関連づけて説明しな
さい(200 字程度)。

問 2 資料 2 は、後にインド共和国初代首相となるジャワハルラール・ネー
ルーが、1930-33 年にかけて監獄の中から娘インディラーに宛てた手紙の
一節である。その中でネールーは、世界の歴史と当時の世界情勢について
書いている。そこで述べられている下線部①と下線部②に類似する他の事
例を、第一次世界大戦から第二次世界大戦の間の時期から取りあげ、その
経緯を「世界の平和機構」が役に立たなかったことと関連づけて説明しな
さい(200 字程度)。